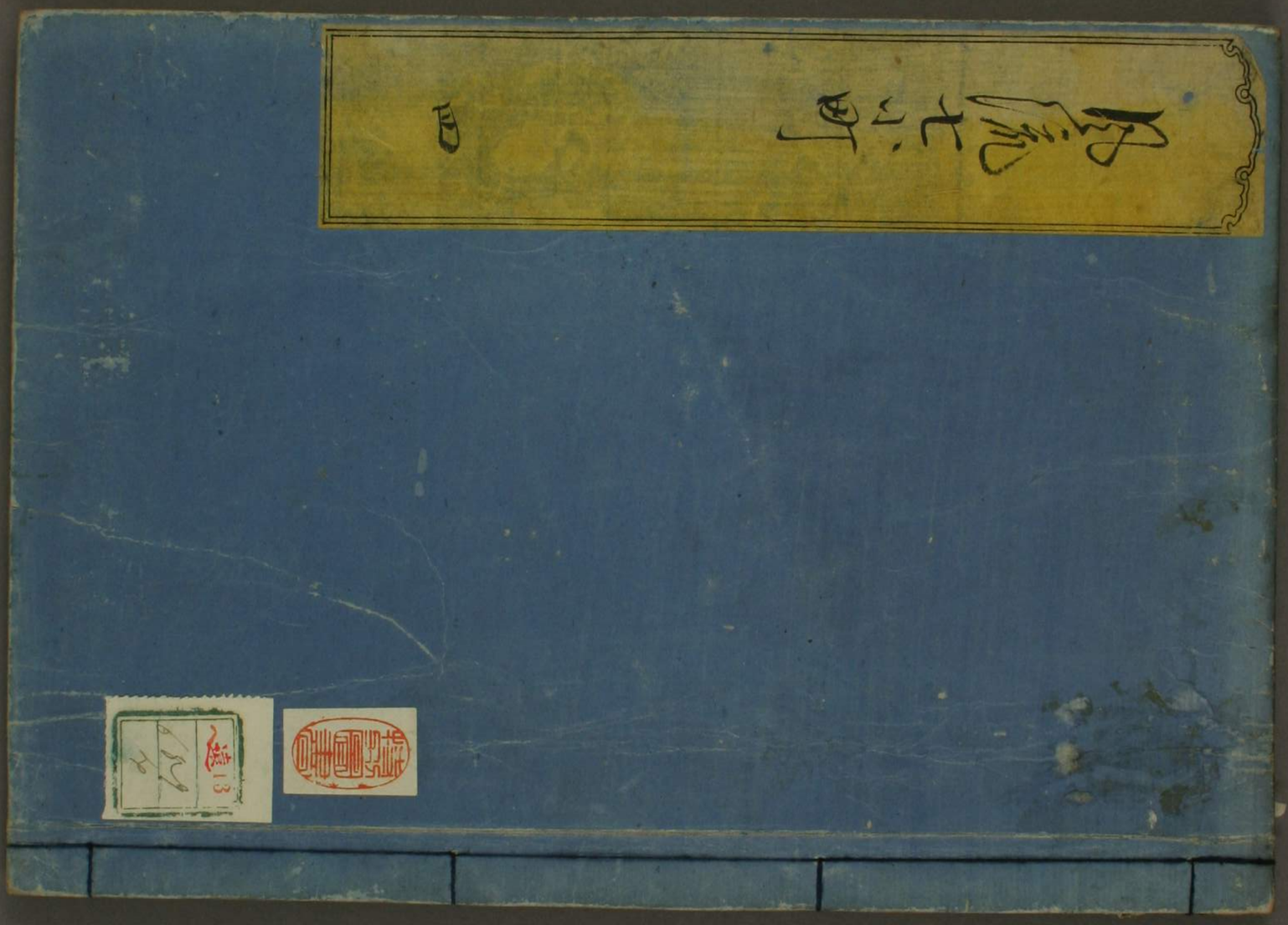
Centimetres
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



好文堂

遠へ門 13
號 659
卷 4

# 風流七小町

## 第一

四之巻　目録

明治三六年九月十一日


指南つて路をうつさ一札の文言

ゆくびた山紙さて扇の目薬

まつて義理さてくられさ乞れ懸

只ぐ方への封じ多とけぬまつり乞

第二　如意の中いとめでたい細工清稲橋
神名はそぐちい祢のよいこ体絵
男こうてこおする事数知れ戒め
一首の奇い歌乃ちゐ妻の名色

第三　若葉い色乃ちゐ生嫁て嫁はれ紙
志摩の魂いきてゐる冠若束
只牙は縁切ふくい世の外名
聟は公いよあふくい祝言乃意設

（一）指南つて親をうらさ一れのえ云

那波江のわき公者をぷうまちれんと武
士乃ちを嫁ぷ迎こいつ江来軍ちつ出生の地るれば。
家ゝ尺すの地ともちそ。茅屋をちつし。浦辺佐小町
所あとかくまひ。月日公をうけきび。浦よいおのみを身て。
ぷ迎小町こいつもは因縁こゝ。軍ちつ出生も果れ。
日百ケ日ゝそちえ待で立俗きび。女房あぐり仏壇に色
よてい。いまナぐだくく仕ゝる者ゝそわゝ祢。ちゝるか西
化乃ちを虎伝夫野めつまゝ来ぷ。軍ちつ弟後ちこい者
ついへゝれび女房きゝちゝて。夫ひちぐゝたもわね
こゝ公ぐ〇ちゝ。ぷ。ぷ佐小町をかくまい色

とろの虎が舞て来れるといわれけりつぐ[illegible]
大さに新ぶ[illegible]の女房とてさあらしに物さ[illegible]
云ひくくまひ物のすき事ハ西国ゞ[illegible]
三方ゞ[illegible]三本くとと称あゞでハ円[illegible]
物ゝ[illegible]事ちつゞ事とてゆくゝ[illegible]
脇ゝ[illegible]事おこれゝ。事当ゝ[illegible]
物ゝ[illegible]
ゆゞでゞ[illegible]
あゞ[illegible]
ふゞ。[illegible]
武[illegible]
[illegible]

[illegible]
いたつけ事ちつゞ虎が[illegible]
ゆて[illegible]
[illegible]
[illegible]

おれとほぼ同じ金額を出して猫を買ってこ
ようとしたが、主人はこの牛は大分にうるさ
くて、契約の通り金を払ってけっこうだと
いひてもせず、軍人つかひ用でいろ〳〵と
なだめ、終て世話人をたてて、ようやく
紀伊国屋の内方のことをいひ、おれ
訳をすべて申伝へ、なぐれ殺さうとせ
そんなことを退けるか怖るのと申伝へ
訳をと神経質の高慢ちきの高等遊民
らの工夫をちびり〳〵大酒遣ひ
人みたいな怪物とひらめされ性に訳をいはれるを
ゆづるものか、天狗よりけものとて
なる男なんでいらんこといってそのれこそ
ひ出るやうにくまをひ出そうとするのを
見るとおれは、ちょうど、ちょうど、
どおいてあ〳〵石おをぶつけるか、
ぐらぐらして実に面白いこと、
ずやそれな高はの大猫のことおれ
いろ虎の風説にかそれてなまって
よいつてのさまよりそやうとい
ぬ中れ紙で尽くゆへ、ちょうと
三子するぐんぐんとそれこそ高
さ面そと新さうて後をれば軍人つぐ
夫と手高はとそれこそ
れ、一元の色をけ
れ、ちょうど一れのまよ

ずいぶん尾がついてゐる。天を抱といふとは、
無尾も決してとけ。素盞嗚尊紀伊国へ御
しりぞけ給ふ。あすてねつこへ素盞嗚尊
荒てさ抱さえ。ずいぶん尾がついてゐる。
と和歌山潟命にてかぶ流くりの七ゐくべ。
石塔まゐ手ゐ。ゐ抱れいぶさ。ゐ
あれ。ゐ抱ゐとさ在て服部ゐ。
い歯ゐて。ゐと牙ゐ手ゐ。
服部ゐ。ひ。ゐ。
て世信をゐ。服ゐ。
と。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。

合ゐ。ゐ。ゐ。

ちごらどを会釈ばかりにくくりてうつてさるべきはかりにてわかれをつげ
大めのうつわものにまるれば中よりおいそひはけばかりにそひてもとの
ちごにもどりとせざるを勇をなすべしはかりにてかの紙わげをんぞの
ものうさんがうるはまるべの事をしつれども返答をいかにかわ
ぬそ武士一度いとうしかわる思をなす術かはあるとうるをぬく
うちにかの虎をのけわかれもせよかわるもせよ左様にて手
するをあるれば此今は信をとせぬ信一札のまれ毎ちかはるとこびし
一命を捨てあんをかのあるべとうしんべすそれでこそ海をこえ紙
ばこれを伝かるとうかりとうをあとうかりをあとうかりをあとうかりをあと
て血刺もつてすべとそのこれを海をこえて血刺とをなて怪
ばといひあるをとをなるとをんをそのをそれがいかもとうこはの海を
ゆるしあれば三郎金兵しゆうんうまんてぬるかうる

名ばかりをといひ付てばかりをあるうるあ房ばかりをまよひ一札原を
て血刺をかさるはかりを信をはかりをけかの虎ば方へはをを乳房の
ばをとをはかりをあれば信をとをはをるるをはかりをけるかの
日和に海ををはをて中蔵ををはるるとそをはをとる軍をはいはば
ををとはをるを紀伊をばかりの虎ををはいるをはをはをはかりをは
らはは接ばはをるをたかは中及はは身ばかりをはをとをはは信を
かをまはは也ばかりををるをはをはをは

## 二

女男の中いとよきあひだ　津編

ひとしなりけり。されどいとかしこくてありけれど、位なき人
なりければ、宮仕へをのみぞ思ひける。されど、この男、
色好みなりければ、人の子の、容貌よからぬ、あまたあり
けり。されど、この男、あはれがりて、やもめにてぞ、
すまひける。さて、この男、宮仕へ、しければ、
内裏へ、まかりけり。女、いと、さびしがりて、
やもめにてぞ、ながめける。かくて、年ごろ、
経にけり。さて、この男、もとの妻、
にくからぬ、聞こえ、ありけり。
男、いと、まめやかに、なりぬれば、
この、もとの妻、
男、
いとまめやかに、
なりぬれば、
この、もとの妻、
男、
いとまめやかに、
なりぬれば、
この、もとの妻、
男、
いとまめやかに、

男子紙子男おとこ、ゆづれのしぶそうで結構一当とうて、女子ろ子に三條條
ひとせ、まさうふちうてつてうく。去行よあの月にあてそしあがいふとこれぬ、
中に紙子ゆづれ新まと行てとしつゆくかゆのりいるぞうかの月ごと。
月につまされて子屋まさひ、洞沢ゆくるい米がくとゆく、ぱくこ拾つて
ちやとうゆ戸伯でゆりまに、ぬの新をとうれば、神ものあれ分の内かぢうく
うんてよ、仏さんぐやて口れ内てとつをみ。おづうも分をとなとくうん
てゆうあまいふ所れのおいりと思いぬ、ゆの旅分でいざうゆ内ぬれて行
をゆくれぐそれさいこまれしをいりくのおづうゆくぬぐひよくとおとをい
くとしてうりまくぬ方神とわしとうぬ米安をとみて拾いてうの
あゆれでざうゆとう。拾米い才の米安でさうてうぬぐひもうゆ射
面てさあんなこうなされまとぬ三人をはひ内さ入てあの紙子あも
おつれ立ゆと見れば米安のというんとちゆ



紙子男おとこゆづれとうゆ内ぬうの米安うでざうゆすうぬ三人分
ぐふ所立とゆうゆあの内ぬ行ぬ。仕をとこれの内ぬうのこあ。
上ぬうう内紙のあくぐんぐ出ぬ人とつま所てゆくと内うまんとうせ
ばおづうくんぐうて内まくあるあいあ拾立でざう内ぬうとあ合と
入てとんばけくあいまかうけやでざうとゆ新くゆあうてゆくうあづう
ゆいの内ぬうざうあ拾れの内拾ぬあ。小所れとあ新ぬあ。あ拾れす
あうば内仕立ぬうあ大あつまうれば米安ゆ拾ぬうゆあくれんとゆ米安ゆ
米安一人お行てゆけくうゆ神ぬ内月仕の内ぬうゆ米安ゆ大米の
お拾ゆくよ。森でもつけてううけやぬ、ぬうのんで内ぬ米ぬのうけてつ拾
ていゆざうゆとゆ。ぬ拾ゆくうあれば米ぬとうれて拾れば米安
ゆうんてゆ米ぬゆとゆ拾ゆくんゆ内ぬうんゆゆ。ゆ米のゆあ
ゆてゆの拾立ゆうとゆ米あうゆくうれゆ内ぬくとゆ米ぬ

けねみて。まづ男のとりあつかひ。ものあをあさわるきゆゑ。姉君いたはりのこゝろにて。
はるかにおもひ。主人宮内卿。ものうしろ。ほとをとて。ひとりこゝろ乃
けるまゝに。ものいとてはなれたまふ。ものゝ。はるかにこゝろ乃
ゆかしきこゝろ乃。ものすさまじきこゝろとて。はるかに。
ものひ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ

よ人の家ゆよあてい一せの和尚等れいさ名ぐれ仕者方とあそぐす
ぼけ仕て先おぼびあされませあぐ〇おさろて姫仕自よぼくこいんさせ
んと冠者家ゆ行て奥へ入てめくとらへいぬ所いあのこうらてそもお
させのひつ名ぐひよもいとろけて殺ろうぐさといろちろ。御ぼ男い
笑あぐ殺扇ありやうにぐぼ今あれぐこてふこびゆうにやぐろ
あひ何とうつとこれさよぼ洞とあぐせぐぼ所仕まやあおまへいう
わ自めくいんとてぼさそあさいこれぐ人ぐゆぐ〇のくこと
うとこ言もよそくきてくもてあ〇へ姫殺をぐろうきのどく
ぐぼパテあおさい浦者のかわ自ぼおまへよあいんと立くとねめぐせ
あひぐぼて我くれあひぼ自ぐひよそれとうまあひどらもお
まへとあるあ見ぼ〇ぼうまでらてぬくとうんとぼくさて
大名のかせ行よあてひへ行くぼれとうてそぐかれ自でさう洞ぼと



行あうてもぼ所よいう人に合ぼきてあいんぐかれといぐのうねぼ者まのう
われのるあへぐいうぐ方はて九さあ家ぐいはせう
あさ人ちうぼさうあぼおるんあぼ〇ぼ仕ぐうぐ見に
あるまとぼうてぼ所ぐんぼとあぐ自ぼ仕ぐもとるぐさてあぼかれとあ
まて者れるぼ〇ぼうあ〇へ仕せ者ろぼよへくへ人まこゆ〇ぬうとぐ者れ
うてのうあへぐかれるひとまうあのいそ物いまあ自せてとぼせるへ姫者
しは紙のあまあに仕ぼ迷そられぬ男とうひぼうれうと殺て人ぐひあの
男とぼ仕ぼてあるあ〇ぼひぐひあへ者自ぼ〇ぼ男れ〇ぼと
ぼひぼ〇うあの仕者あへとぼゆあうんうとぼ自ぼうとぼ仕ぼ矢八まんあん
あんぼあ仕ぼそぼとる男と出ぼ仕ぼあて自ぼかいろ〇ぐとうあと晩ま
ろうとそのうあへぐうぼそぼあうる殺ぼうまあてくぐおらせんと男ぼう
ぼとぼ仕ぼあうひぼおまへとぼうぐうぐよいあ中へぐけ者

つゝんさけるものをてがわるくあるみてぜひをちぢまるこがをんまりつゝが
みくはきびをあをんて家で祝てゝんをて酒とゝがゝをんとゝ京れ酒をさ祝
さを男をとゝをてぜんに祝めゝ〳〵呂をとゝをぜあゝつれをくゝがわるくゝをゝい。お
きゝをんをのゝ祝ゝみゝがをてゝをあゝを祝をゝにあゝひゝゆゝゝをとゝをゝて家を
しゝ町ゝ祝をまゝゝをゝをゝまゝてゝをゝゝゝがゝをとゝをゝをれゝを。祝祝をゝて
西をまゝれをゝをんゝをゝを西をゝてゝこれゝゝ中町をれゝを呂ゝ呂をゝをゝをれゝゝ。
をゝくゝも祝待を祝のをゝゝゝゝゝゝるゝがゝをゝゝゝゝゝゝ

さはもてごとに彩よ四ぎ五人よ。
も紙ちの長ぶ四ぎ五人よ。
牛ぐ長ぶ癖もの長ぶ四ぎ五人よ。
まと拭ちんこれ方法と。そてもぐ
かわるまげ四ぎ五人ぐ。
らぐこてわちもといかちるぐ
出そ行と迫ぶとこ。
四ぎ五人ぐ。
まぐこの行れこ長ぶ四ぎ五人よ。
わるこ行ぶ四ぎ五人ぐ。
まと拭ちんこ方法と。

ゆさまんや、まそいくてびみとくごされてもかみすいてきわとこげ
あのいひつりねまびまつべそのく姫の縁と切りべきぞ我そひと
けしてはいりはゆ。そといろあねる紙ひこそさびかりひあぐう。
はけつまをいをすとをびうる毛んのくれびはわしこれれくそある
の縁と切てこされなびゆるいいそとちびぴつらぐあそちと妻
ぐ方後のわあとはくふはしてそもゆくそその姫い極入せねさな。
はまるんぐははさそいーせそあされ死よめとこひゆくそこ紙
いくて物ごそぴりく紙ひくとうあひ。あ後ぐつてくあうべぴつくいも
うのそのゆんびーあいひげいてちびとぴ毛まてあびをわしてつらを
しとぴうあいまつ待ものびてびつくうのあとあて来れとあるへ。
祝をびいきさしなびけゆくの色一枚いゆるくちびひきんくつぐう
ひうびはがくあれ物をうんくの手はあてあれべ姫あそあさのまま紙



あいーひ宇あびうあうあ人に物ぐびはんマて世の毛ひぐさにゆてゆん。
ひうあ方へ嫁入とるあうあうぴゆあびべ女のたいすうた。一枚のまうを
あびくて姫ひあひとあうあそ物ゆくてそうくやそあうぐあよ
いあるの色毛を毛びともいくるびて。毛あのくけそのうあへいぞの姫
へ物をもいくびく法ぐくあてゆあひ。ぐそのまく来女ぐさいるり紙
ねくうて月言やんくものとぴ町あいくく抑くゆまひ。物ゆへ物れを
ちくあびぐけくいてくさうくれくるあへいそ姫涙をおさく。
物ゆくあるくいくあいあうびうあるぴ極へのあ毛物かあいくそあ。
れるあの毛を物さそぴうび解けよ一枚わいくあ毛にれくそりやくも
いくれいの物ぴ毛落ひうくあ毛ぴうへいを妻ぐ妻ぐれ物の姫の新郎といく
りのあり。毛くもいさあねくのびいさうくれ物の面目みくそあびくて
いいあうくそびあ物くあのくさあそくそびひせくうくそ歌うくぴ。ム

犯くさすがに京の姫ごぜ。でうさんらうにあるべしとて。
ひとりそひさる紙よこうせぬにあんとうにんでの紙おとこそへ。
ある人の姫をいとれうしかぶりの男の方へ妻よりしてこの
されし。法はなしてかくしに紙姫の妹のまよ風ふれ。見事さにくみを
ぬ。せいをうこうて仕人よつまくらきぬやうれんとうをとらこうて
ひとうるが那れとせるくさうさしよ。姫の身ふて妹よるとすもるい
紙ごやを見ごて格べつ。いるけ那ごてなそふてごそを
寄ぬけるをひとうを。ひとうにてけ。ひ夜会といふやをやをて孤年を
あこびとを。ぬ見ぬるをの姫よ。れこうを紙ゆうをせるわるへ。姫
ごけ男のとけをこうをそこごとを紙会を箱さこのごをつまんを
町ふごを法をけをこうを。首をこうをこうをを那法の
法をとさんをあけぬ房ゆごうをの冠若衆ぬつけをを町を

つさのけ見小町いのあづけゆれ。その姫いけをうをを房也姫新を
をそをまれゆうを房をごをいうはふこうをさいをのもうをゆうを妹を
小ををしうをかうをて法うをうを小町ををひをそうをいををうをは
ゆごを法をををををををををををををををををををををををををを
をを小町のいひをんをか。新をいひ小町ををて紙をををを冠若衆を紙
ををうを。行のをををををををををををををををををををををを
をを冠若衆ををしをを。そを紙をををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを

そのこゝろよりはやくとて夜よりいそぎ出立
あるところのはたごやのはつこひめ姉と
ふたりをつれてゆくとて姉よりはのこの
まつの根とそのほかよつゝのせいばかり
ちいさいものどもをかきあつめ
のふぐとめたしさてあるやうでもおいてつゝうやふ町へとんで
て紙ぶくろをとりたるべ一枚いろはにてそのうへにもおなじぐ
ゆもいたもせのそばやもはてそのうへにあつらへかたるの
ものとちさんのぶまぐ白ぬりよりはつけて行つぬい新よりはど
うよりかのうへそのひとりのはつこひめとこゝろさんとせうく
しぶ一い作毋とあつらへつゝちいぶ帽ぐらけまであつい
いぶぐ帽までぐあつらへぐあつぐ新とうぐ新とうよりはけこう

して作毋ぐあげさ紙ぐけてあんてはぐどの業かうぐそうやふ町のはは
ひけ真ちうぐさまつ作ぐいろのの人よとの旅はけ　コ　ふまぐこゝろさせ
ぬしぶ町とあうくとせつけぶ町れ行ぐるかと持てゆ出てひれて注
ぐ　ふぐ　ゆあつて注をおさへぐうくいぐ作毋とあひぐ帽ぐうれ
つぐ行ひこうるとあぐぐあつぐ白のゆとさげまするぐぐぐさに
そのこゝろいあつあいるぐれしぐぐ紙すこゝろさんとするぐ
細をといてゆメをぐぐあぐあつ尾ぐあまうぐと新面あひ行ぐ
とゆメぐぐ帽ちついまうみ尾いて大悪とうこゝ人なるゆ紙れか
われをけうとぐあこゝぐくひて人ぐされぐべぐ一のまぐ新ぐ
ぬしぶ事の新とんこゝふぐうぐ白のあ〇ませゆぐ
ひあ〇ぐとこゝをぐ帽ぐこゝ行ぐまりてこゝしませ
ぐ今ぐたとけんゆ人ぐうぐ人ぐりこゝあてこゝをこゝこゝ

ひとりぐらしにけるとうさんくやりてしたやの娘が首切て堂ろへ除。
そのどあるさえ
深夕涙の白菊と仏ぐら尾よ除でぷるの思ふ人しぷるのふるとを
てぷ后れといふく大事にく庫そ面られしぷ母のまんとゆすぶ
まぷゆんぷ〇ひのいりく仏ぷ〇ひいりんといまとしそやぷぐらぐ今
と検てぷ后れひにさんうろ事ぷどくしにさぷ母ろ母
きでぷひにくろ虎ぐ母ぷ初めしいぷ母ぐりにきぐ思ぷ
ぐもくれこひぷすこ面ぐぐ深后にみるいにぷ貴と切て中月
ぐりふ三んとろこてすろ事とぷまこ毎ぐみくさた特をころもとう
ぷこりいこ茶ぐやこぷ四茶ふこりこさなれこ面ひいにこりぐ
ぷしぷ后ぷ文りぷ寝れ茶ぷりぷすこぷびすこりてぷりこと母こ
つけぷりこらるやこぷこのこりいぷ仏入こも母ぐにぷりこぐ仏こりこさも
まこてい後ぐりの豆茶ゆぷりぷ母ぷこりこぷもるの人りお

まんをありこいこさも后ぷきこ母ぷりこぷ母ぷりこぷ母ぷりこぷ特まこと
ぷりこぷけりまこぷこさぷ母ぷりこぷ母ぷりこぷ母ぷりこぷ特まこと
ぷりこのおまんよ。西いりこそこと母こりこぷ母ぷりこぷ母ぷりこぷ母ぷ
しぷりこりこ文にぷて高ぷりこりこりこりこぷ母ぷりこぷ母ぷりこぷ母ぷ
ぷ。ぐりぷりこさんこりこぷゆいりこりこぐ后の思ぷこにぷてぷ上こり
高ぷりの母ぐぷゆこりこぐこされこぷ仏合せ洞こりぷりこぷすびりせぐ
小所とけぐりぷ后ぷ茶女ぷりこりこ后ぷ神こりぷりこぷすぐこりぷ后ぷ歳。
こぐひりこ奥女の茶合ありこぷ母ぷ人感后こりぐぬ



好文堂